

2022年度 ほたるサポーターの紹介

※本誌への紹介を希望されない方は掲載していません。

寄付者 10口以上のご寄付をいただきました(3000円/1口)

さとう行政書士・社労士事務所(下記にご紹介しています)
北田俊夫 沢井進一 中信二 古川道夫

寄付者 3口以上のご寄付をいただきました(3000円/1口)

金崎いよ子 下田義春 鈴木良臣 矢代眞佐博

寄付者 1口以上のご寄付をいただきました(3000円/1口)

加村賀勇 倉嶋 翠 小林靖雄 柴田恵美子 庄 郁雄
竹内辰郎 竹山瑞祥 平山奈央子 松村順子 森 雄三
山口幸江

賛助会員

青谷正史	石田昇平	井野清治	岩崎祐子	岩本照美
上田一好	上野加寿紀	大谷明代	大瀬洋子	金崎 崇
川上慶子	川上奉代	北野 進	倉嶋昭廣	蔵田良美
桑原文子	杉野久男	須佐見芳江	瀬川 香	瀧沢 守
田島龍一郎	多田 稔	田中三千子	谷口淑恵	寺田光江
戸田博通	中 秀行	長尾克矢	中島 耕	長谷美智留
並河 聰	野田浩資	林 知佳	菱倉新緑	廣田昌代
藤井明德	藤井 清	藤本幸子	古川晴美	細谷卓爾
本田恭子	松居弘次	松村順子	三浦豊司	宮本武吉
森 雄三	矢代眞佐博	安田英行	山口幸江	山添史郎

特定非営利活動法人 碧いびわこ

旭化成(株)守山製造所
おたがいさんネットワーク
株式会社 かめやクリーニング
株式会社 清原
クラブサンタクロース
湖南・甲賀環境協会
湖南ホームタウン(社会福祉法人滋賀県障害児協会)
これから行動隊
さとう行政書士・社労士事務所
工房シーダー
NPO法人滋賀環境カウンセラー協会
有限会社 哲
鉄人工房マツヤ
(有)パンカー保険事務所
びわ湖・大津ノルディックウォーキングクラブ
株式会社 森川商店
社会福祉法人守山向日葵会 若鮎保育園
守山市金融協議会
山本紙工(株)
NPO法人 ゆうらいふ

さとう行政書士・社労士事務所

許可申請・労務管理・給与計算 他
http://www.sgyosei.com/index.html
守山市勝部4丁目3-1
TEL: 077-583-2627
代表 佐藤育子



投稿者募集中!!

今月の詩
残り飯握る母の手春の風
三春隊長
古里の蔵の二階の御雛様
如何に在すか今日雛祭り
N.S.
焼きたての焼き芋抱えて帰り道
まるで陽だまり抱いてる幸せ
I.K.

2023年度これからの活動予定

開	開催日時	場	活動場所
◎2023年 総会	開 5月14日(日) 14:00~15:00	場	びわこ豊穡の郷事務所・オンライン
◎第20回守山ほたるパーク&ウォーク	開 5月21日(日)5月28日(土)5月29日(日)	場	ほたるの森資料館・目田川など
◎目田川モデル河川づくり	毎 毎月第3土曜日 9:00~11:00	場	目田川河川公園

しじみのひとりごと

愚痴になりますが、「物忘れの多さ」に辟易しています。メモ書きしても、そのメモが見当たらないのは何時もの事。会議の約束もよく忘れて皆さんに迷惑をかけています。眼鏡、帽子、財布の類探しが日課に。眼鏡は5個揃えて対応しています。加齢のため避けられない症状なのかと落ち込むことも。と言っている間に今年度もあと僅か、ここで締めくくりを、コロナ禍の下、今年も行動範囲が限られたのでカメラ他紛失したものは全て手元に戻りました。カメラを匿名で警察に届けて頂いた方、どうもありがとうございました。
T.M.

豊穡の郷 だより Vol.98
人と水環境のネットワーク

2023年3月15日発行 発行部数 1,800部

発行 認定NPO法人びわこ豊穡の郷 E-mail houjyounosato@lake-biwa.net
理事長 金崎いよ子 URL http://www.lake-biwa.net/akanoi/
住所 守山市勝部五丁目10-25
TEL 077-583-8686 (有線 583-8686)
FAX 077-558-5007

- 1面 淡海こどもエコクラブ壁新聞大賞受賞!
- 2面 赤野井湾・小津袋クリーン大作戦、水辺の楽校(春編)
- 3面 川づくりフォーラム、講師チーム誕生!
- 4面 今月の詩、しじみのひとりごと



目指せ環境リーダー 目田レンジャー参上
淡海こどもエコクラブ
壁新聞大賞受賞!

説明しよう!目田レンジャーとは、目田川で毎月第3土曜日の午前中に清掃活動をする小学生中心のグループです。中にはこの活動に参加して8年目の子もいます。目田川にはホタルの幼虫や、オイカワなど60種類以上の水生生物がいます。その生き物を守るために、目田レンジャーを始めました。時には目田川のゲンジボタルの棲みやすい環境を作るために、川底の30cm くらいの大きな石を移動させたり、川べりにホタルが卵を産みやすいように、上流のコケを移植したりもします。今のメンバーは、ブルー(5年)、オレンジ(4年)、ゴールド(2年)、パープル(2年)の4人です。12月にはこの4人で作った壁新聞が「こどもエコクラブ壁新聞コンクール」で大賞をとり、滋賀県代表で国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加することになりました。近ごろでは、目田レンジャーにないたい子たちが増えて、月1回の清掃活動に来てくれるようになりました。もっともっと仲間を増やして目田川を守りたいです。



第16回 赤野井湾・小津袋 クリーン大作戦

—子ども達のパワーと共に—

2月25日(土) まだまだ寒さ厳しい中、強風にあおられながら約60名の方々が参加下さいました。それぞれが防寒対策をし、船に乗り浮遊ゴミの回収。赤野井湾湖岸へ向かいゴミ拾いを開始。湖上、湖岸とも回収したゴミは、空き缶やビニール類、トレイ類、肥料袋等々。私たちの身の回りにある物ばかりです。

また船から降り、ヨシ帯に入り込んだゴミの回収も行いました。今回子ども達の参加も多く、寒さも吹き飛ばす程の賑やかなクリーン大作戦となりました。回収したゴミ310kgでした。まだまだ減ることはありません。

ご参加いただいた皆さまありがとうございました。



子どもたちががんばりました！！

水辺の楽校—春編—



2023/03/11



ほたる幼虫の放流

3月11日(土) びわこ豊穰の郷の目玉イベントの一つである水辺の楽校に学生スタッフとして参加しました。今回は目田レンジャーの子どもたちが中心となったイベントということで、今までとは違った雰囲気、とても楽しかったです。チームはブルー、パープル、オレンジ、ゴールドに分かれました。これは目田レンジャーのリーダーカラーです。リーダーの子たちが受付の済んだ参加者を案内しているところを見て、参加者をもてなしたいという気持ちがとても伝わりました。ホタルの幼虫の放流では、目田レンジャーたちが、小さい子でも川に安全に近づける場所に案内したり、幼虫にとって優しい放流の仕方をレクチャー

をしていました。次の春の植物や生き物を見つけるビンゴゲームでは、一番目田川周辺を散策できるイベントとなっており、子どもたちはゲームを通して目田川の自然について学ぶことができたのではないのでしょうか。大人と協力して楽しそうにゲームに参加していたのが印象的でした。ビンゴの終わりには景品も配られ、とても嬉しそうでした。最後に、会員の方が起こしてくださった焚き火や竹串で、マシュマロやウィンナーを刺して焼いて食べました。このような経験はなかなかできないことなのでいい思い出となったと思います。初めて子どもが中心となって進行するということが、最初は大丈夫だろうか心配していましたが、目

田レンジャーの皆さんはとてもしっかり役割を果たしていました。自分のチームに呼びかけをしたり、自分が持つ知識を共有したり、リーダーシップを持って活動できたのではないかと思います。なによりも、子どもたちが活躍してくれることで、親しみやすく、参加者たちとの交流も活発だったと思います。目田レンジャーの活動は、学校や習い事では味わえない自由で自発的な活動ができると思います。環境について学ぶ第三の場所や自分らしさを育む場として、この活動がより活発なものになればいいと願っています。徐々に活動に参加したにも関わらず、子どもたちが仲良く接してくれたので、目田レンジャーのファンになりました。



守山の良さを再認識!!

川づくりフォーラム

↓以下はかつての地域のお話です

2月11日(土) 玉津会館で川づくりフォーラムを行いました。今回のテーマは『守山くらしのなかの水辺—教えてあなたと水の物語』。滋賀大学研究推進機構研究員の柏尾珠紀さんに話題提供をしていただきました。柏尾先生は、「守山は水が見えているところが良い、川が管理されているが階段があり人々に川が開かれている、そしてゴミもない。これは地域の人々が身近な水辺を大切に管理をしているという証である。そういうことが、今も受け継がれているということが守山の素晴らしいところだ。」とおっしゃっていました。その後、学区ごとに分かれて地域の水辺について話し合いをしました。最後にテーブルごとに発表をし、参加者全員で各学区の話し合った内容を共有しました。

【玉津学区】ホンモロコが琵琶湖からたくさんあがった。手や網でそれを捕まえた。川がプール代わりにカエルなど生き物と共存をしていた。地面を掘ると水が沸いた。“どっこいしょ”は生活用水として使用。川は洗濯や鳥をさばいた後の処理に使用した。
【速野・中洲学区】法竜川では田舟で農作業をした。野洲川に近く危険な場所だが1000年以上前から人々が生活していたのは、生活用水が得られやすかったからだと思う。70年前は野洲川の伏流水を親池に貯め、100mほど離れた民家近くの子池に竹で作った配管で水を送っていた。子池の水が減ると親池から水が流れる仕組みになっていた。家の近くにある水はカナケが多い為、野洲川の伏流水を生活用水として使用していた。

【小津学区】赤野井湾に接している地区である。学区を流れる川の水は、金ヶ森湧水公園からの水がほとんどである。物流は田舟と牛や馬を利用していた。
【守山学区】昼ご飯を食べた子どもは、農業用水をせき止めた場所で水遊びや魚釣りをした。農業を使わない時代の川は安心して遊べるプールであった。釣りの餌は首を取ったイナゴやハチの子、ミミズなど。今のようにザリガニはいなかった。
【吉身学区】石田川に水車が3、4機あった。水車をいも洗いや米の脱穀、洗濯などに使った。昭和30年代地下水は冷蔵庫代わりに、うりなどを冷やした。

滋賀大学 柏尾珠紀先生

速野学区で昔使われていた野洲川の伏流水を地区まで流す配管

講師チーム誕生!

去る11月24日(木)、当法人の会員を中心とした7名が立入が丘小学校、河西小学校の1限目2限目の講師として授業を行いました。内容は『海洋から考える琵琶湖のプラスチックごみ問題』です。この日を迎えるまでに、全員で教材のパワーポイントを使って事前勉強会や、オンラインでお互いに講師と生徒の役を交互に行う模擬授業を行うなど、本番に備えがんばりました。おかげで授業終了後の達成度はその表情が十分に物語っていました。

この時の講師のみなさんが、企業や地域対象に環境学習会を行うためのチームを結成しました。今はそれぞれが企画案を作成中ですが、今後は自分たちの作ったプログラムで講師として企業を訪問し、賛同者を増やし人員確保、資金調達など、基盤強化につなげたいと考えています。



立入が丘小学校の授業風景